

ハートモニ

特集

うさ吉&ライアンの

「ワーク・ライフ・バランス」を考えよう!

ひと
きらめき人シリーズ

「その日その日で
小さい目標を作り、クリアしていけばいい」



漫画家
茶畑るりさん



アシスタント
下田泰也さん
(東海大学生)

今回は、沼津市出身の漫画家 茶畑るりさんと、将来、漫画家になりたいと夢を追いかけているアシスタントの下田泰也さんにお話を伺いました。

◆デビューのきっかけと、その当時の様子を教えてください。

13歳の時に、「リボン」という少女漫画雑誌に漫画を投稿しました。それが受賞し、14歳でデビューすることになりました。その頃から、ずっと4コマ漫画のスタイルで描いています。デビュー当時は、まだ中学生だったので、勉強と部活(器械体操部)をやりながら、1ヶ月に10ページ位の原稿を描いていました。テストと原稿の締め切りが重なった時は、原稿を取っていましたよ(笑)。お金を稼いで、早く自立したいと考えていました。

◆沼津での活動について聞かせてください。

沼津の夏祭りで「似顔絵をやりたい」と思い立ち、沼津観光協会に飛び込みました。その頃、沼津のクリエイター協会が発足していたので、それに参加し、デザイナーさんや広告代理店の方と知り合うことができました。それから、色々なところで「似顔絵コーナー」をやらせてもらっています。

その他、東海大学で特別講師を3年間務めました。建学祭(東海大学の学園祭)で似顔絵コーナーを担当したのがきっかけで、「漫画の直接的な指導を」と頼まれました。

茶畑さんの
有名人似顔絵作品



◆今のお仕事と、今後の展望について聞かせてください。

今は、読者が投稿してくれた話を4コマ漫画に起こすのがメインの仕事です。その他、ラジオやTV出演、心理学の漫画や、連載物のオリジナル漫画を描いています。

今後も、漫画家として続けていきたいと思っていますが、その中で、3Dとか違うジャンルの勉強もしてみたいですね。

◆プロから見て、下田さんはいかがですか？

下田君は、現在、私のアシスタントをしてくれていますが、私が思っている通りの作業をしてくれるので、とても頼りにしています。トーンの張り方とか、私よりもよく知っていますし、絵も上手です。下田君がデビューしたら、すぐに追い抜かれてしまうと思います。

◆最後に、「夢の実現」について一言お願いします。
(下田さん)

漫画家になりたいと思っていますが、最近、自分には1つのものをじっくり描き込むイラストレーターの方が向いているのかな、とも感じています。作品を投稿しながら、色々な人の意見を聞き、人との関わりを大事にして頑張っていきたいです。

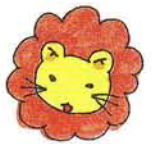


「夢の実現」について語る2人

(茶畑さん)

私は、たまたま漫画家になれましたが、なっていなかったらどうなっていたかわかりません。夢や、なりたいたいものが見つからない人は、今に限ったことではなく、昔からいたと思います。「夢」なんて大袈裟なものじゃなくても、何でもいから、その日その日で小さい目標を作り、クリアしていけばいいのではないのでしょうか。

漫画家を目指している人は、日々、自分の心と人間観察をするといいですよ。それに、失敗したっていいんです。何でもネタになりますから。



ねえ、うさ吉君、「ワーク・ライフ・バランス」って何?

ワーク・ライフ・バランスとは
誰もが、仕事・家庭生活・地域生活・自己啓発・休養など、様々な活動について、自分が望むバランスで展開できる状態のこと。

スルスルー
「ハハハハ」事だよ。

む、難しくわかんないよ...

じゃあ、ライアンは、狩りとか、子育てとか、趣味のお昼寝とか、いろいろあるけど、どれを優先したい?

え?

パパママが年を取ったら介護もするし、近所のお付き合ひも大切にしたいよ。

お昼寝だって毎日したいし、一緒に遊びたいし、結婚して、子どもができたなら、狩りをしなきゃお腹がすくし、

えーと

だよね、その希望が叶うのが「ワーク・ライフ・バランス」なんだ。

あー

仕事、家庭生活、地域活動、自己啓発、休養、バランスよく充実した生活

これが、ワーク・ライフ・バランスの大きな3つのポイントだよ。

男性も女性も、あらゆる世代の人のためのもの

「仕事の充実」と「仕事以外の生活の充実」の好循環

人生の段階に応じて希望する「バランス」を決めることができる

でも、何で今、「ワーク・ライフ・バランス」が必要なの?

それはね、今のままの働き方だと、社会全体が維持できなくなるからだよ!

ええ!? どういう事?

少子高齢化や人口減少など、時代が大きく変わる中で、個人や企業、また社会全体にとってワーク・ライフ・バランスの推進が重要な取り組みとなっているんだ。

①個人
○仕事と家庭の両立が困難
○自己啓発や地域活動への参加が困難
○長時間労働が心身の健康に悪影響
→ 仕事と生活の調和のために必要

②社会全体
○労働力不足の深刻化
○生産性の低下、活力の衰退
○少子化の急速な進行
○地域社会のつながりの希薄化
→ 経済社会の活力向上のために必要

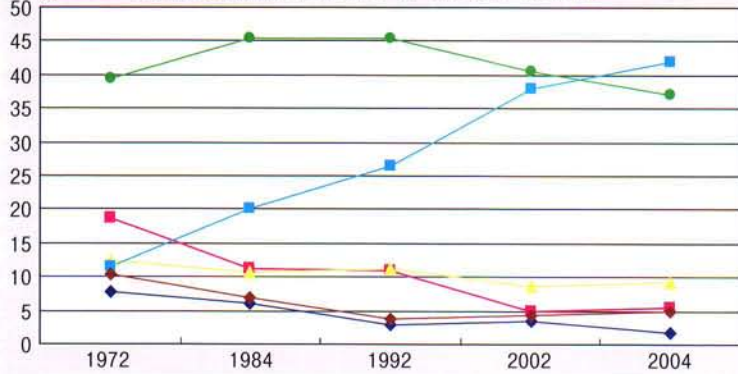
③企業・組織
○人材獲得競争の激化
→ 多様な人材を生かし競争力を強化するために必要

○ワーク・ライフ・バランスは経営戦略の重要な柱：「明日への投資」
○中小企業にとっては特に大きな意義

ほお

ピシッ

女性の働き方に関する考え方（女性）



- ◆ 女性に職業をもたない方がよい
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- ▲ 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- ★ 子どもができたらか職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- わからない

左のグラフでは、女の人の働き方に関する考え方が、大きく変化しているのがわかるでしょ。

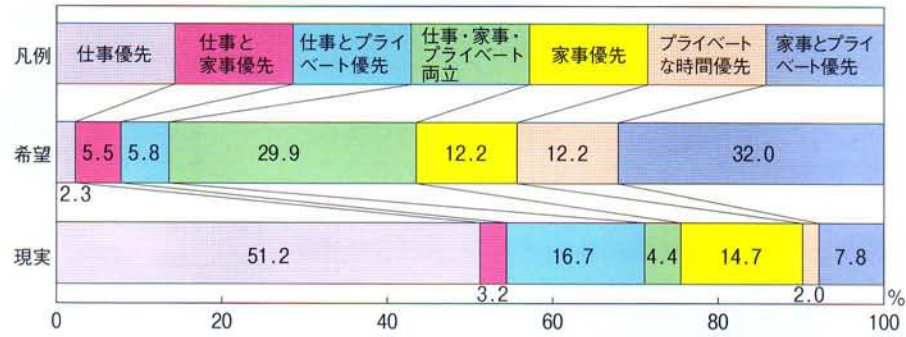
下のグラフでは、男の人も、仕事や子育てを両立したいと思っているけど、希望と現実には大きなギャップがある事がわかるよね。



ライフスタイルと意識が変化する中で、仕事と家庭の両立が難しい状況にあるんじゃないかね。



ワーク・ライフ・バランスの希望と現実（男性：既婚有業 n=1,929）



資料：「ワーク・ライフ・バランス」推進の基本的方向報告～多様性を尊重し仕事と生活が好循環を生む社会に向けて～（平成19年7月 男女共同参画会議 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する専門調査会）

他にも、ワーク・ライフ・バランスに取組んでいる企業では、男女とも従業員の定着率が高いことがわかってるんだよ。

他にも



色々の意味でワーク・ライフ・バランスが必要とされているんだね。



仕事も家庭もプライベートも充実した生活を送るために

みんなで進めよう！「ワーク・ライフ・バランス」

わあ イイ事ごぼー！

多様性を尊重した活力ある社会になるんだよ。

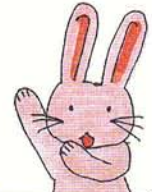
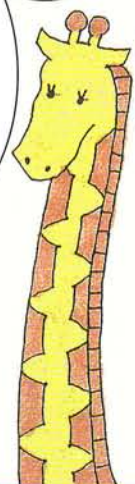
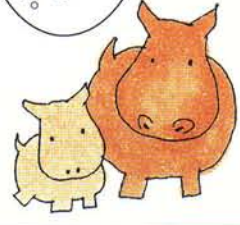
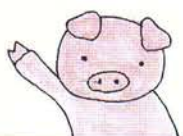
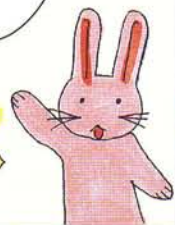
それに、働く人それぞれの価値観や希望に柔軟に対応することで、

自分の能力を十分に発揮できる社会になるんだ。

職場・家庭・地域で責任を果たしながら

女の人も男の人も

ワーク・ライフ・バランスを進めることで、



がんばる沼津の女性団体 活動記

◆◆ 地域に男女共同参画を進める事業 ◆◆

講演とシンポジウム「働く明日を考える」

日 時 平成19年12月9日(日) 13時～16時

会 場 沼津信用金庫本店 沼信ホール

実施団体 沼津ピア



講演の様子

第1部の講演では、講師に福地潤子さん（サッポロホールディングス(株)CSR推進グループリーダー）をお迎えし、「女性が活躍できる職場作り」をテーマに講演をいただきました。

男女雇用機会均等法が改正され、第1期生として社会に出出し、男性社会の中で「女性だから」と苦勞したことや、その固定観念に負けず、自分ならではの仕事の取り組み方を、事例としてお話をしてくれました。

まだ新人と呼べるような頃、部長の代わりとしてドイツに単身出張をされた時、「私にしかできない事をしよう」と、振袖姿でビール瓶を片手に宣伝活動をしたところ、地元のメディアに大きく取り上げられたお話や、少しクセのある上司の下で、精神的にきつい時期があったそうですが、のちに、「上司は、クセはあるが道具としてなら使える」と発想の転換を図って乗り越えたお話などは特に印象深く、会場から感嘆の声がもれました。

また、仕事が残業続きで忙しくても、ベランダ菜園や、ダッチオーブンで個人輸入してアウトドアを楽しむなど、プライベートの充実も大切にしており、「仕事は楽しく、遊びは真剣に」をモットーに日々過ごしているそうです。

質問コーナーでは、「同性のパートさんにどう接したらよいか」という女性経営者からの問いに、「女性とか男性とかで態度を変えない方がいい。職場では、プロであることが唯一求められます。プロとして人材育成を心がけて下さい」とアドバイスをされました。

福地さんのお話は、働いている女性、あるいはこれから社会に出ようとする女性にとって、とても心強く、参考になるお話でした。

続いて、第2部では、「女性を企業の活力に」をテーマにシンポジウムが行われました。コーディネーターに、犬塚協

太さん（静岡県立大学教授）、パネラーとして福地さん、小笠原啓之さん（沼津青年会議所理事長）、工藤政則さん（沼津商工会議所青年部特別理事）をお迎えし、それぞれの企業における女性の活用などについてお話を伺いました。

小笠原さんは重いものを運ぶ運送業、工藤さんは締め切りに追われる印刷業ということで、なかなか女性を活用しにくい職場だということでしたが、パネルディスカッションが進むうちに、重いものの稼動には機械を導入し、力がなくても作業ができるような工夫や、女性が参入しやすい環境づくりが必要ではないかと、お二人の意見に変化が見られました。

また、犬塚先生からは、「女性の働き方を考えるという事は、同時に、男性の働き方を見直すことでもあります。家庭責任が重く、思うように働けない女性や、仕事と家庭とプライベートを両立したいと望みながら、現実には仕事優先にならざるを得ない男性が多いなか、今後、行政や企業が一体となって、誰もが働きやすい環境づくりへの取り組みが非常に重要だと思います」と語られました。

会場からも、今後の沼津市の労働環境が、女性にとっても男性にとっても、より良いものとなるよう期待する声が聞かれました。



シンポジウムの様子

磐田市訪問記

平成19年10月16日、アミーぬまづの会員を中心に、市内在住の女性16人が、磐田市男女共同参画センター「ともりあ」を視察するとともに、磐田市の男女共同参画推進団体「ウィミズネットいわた」と交流を図りました。

磐田市では、男女共同参画をまちづくりの一環と捉え、市民参加のもと、平成18年4月に男女共同参画推進条例を制定し、平成19年6月には、男女共同参画センター「ともりあ」を開所しました。「ともりあ」を拠点に、男女共同参画に関する様々な講座が、磐田市内各所で開催され、多くの市民が参加しているそうです。

今回の視察研修は、市全体で男女共同参画に取り組む必要性を改めて実感し、とても勉強になりました。

★あなたも男女共生情報紙「ハーモニー」の企画編集に参加してみませんか。

★ご意見・ご感想・イラストをぜひお寄せください。

沼津市男女共生情報紙第15号「ハーモニー」（平成20年3月発行）

編集委員：小野寺美佐子・坂田圭代・嶋野満子・竹松美津子・成田るり子・根上茂美・松本徳子

発行：沼津市企画部政策企画課男女共生推進室

〒410-8601 沼津市御幸町16番1号 TEL 055(934)4705 FAX 055(934)5011

E-mail kikaku@city.numazu.shizuoka.jp